

1. 妊娠・出産前後の母親・父親の意識や行動

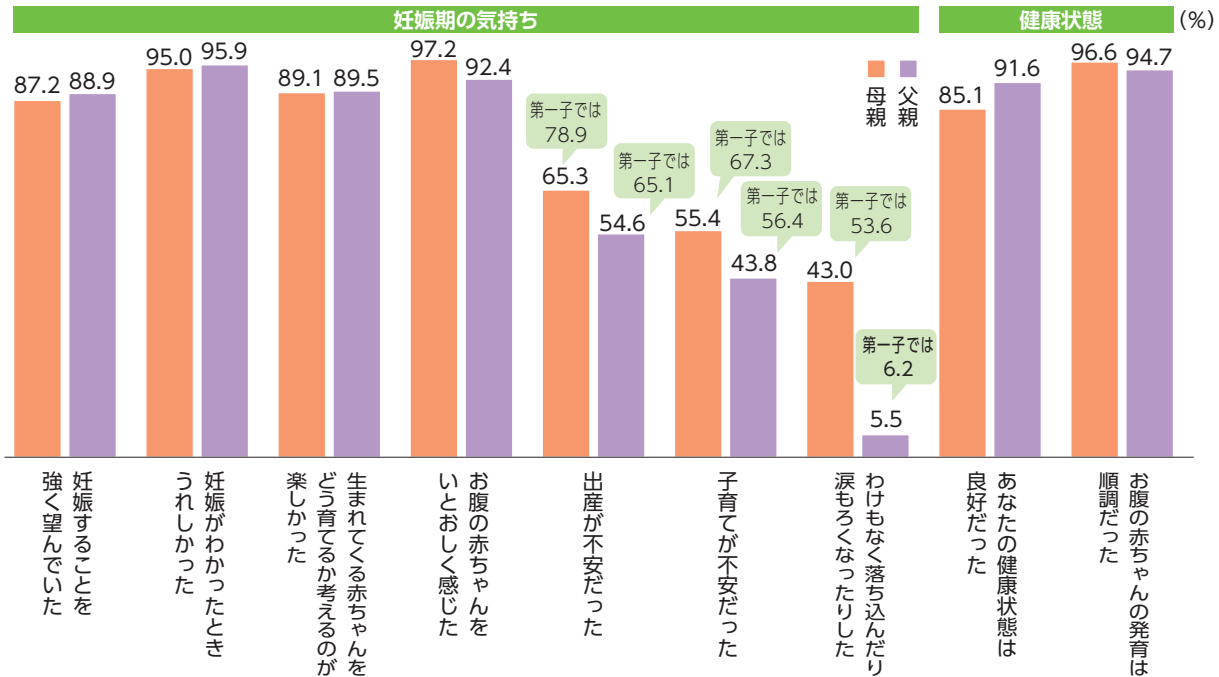
妊娠はうれしいが子育てには不安も。妊娠期の情報収集は母親が85.4%、父親が53.8%。

対象の子どもの妊娠について、9割以上の母親・父親がうれしさを感じるなど前向きな気持ちをもっていた。一方で、出産に対する不安は母親の65.3%、父親の54.6%、子育てに対する不安は母親の55.4%、父親の43.8%が感じていた(図1-1)。「本や雑誌、インターネットなどで出産・子育ての情報を集めた」のは母親の85.4%、父親の53.8%であった。妊娠中に飲酒、喫煙をしていた母親はほとんどおらず、生活習慣に配慮していた様子がうかがえる(図1-2)。



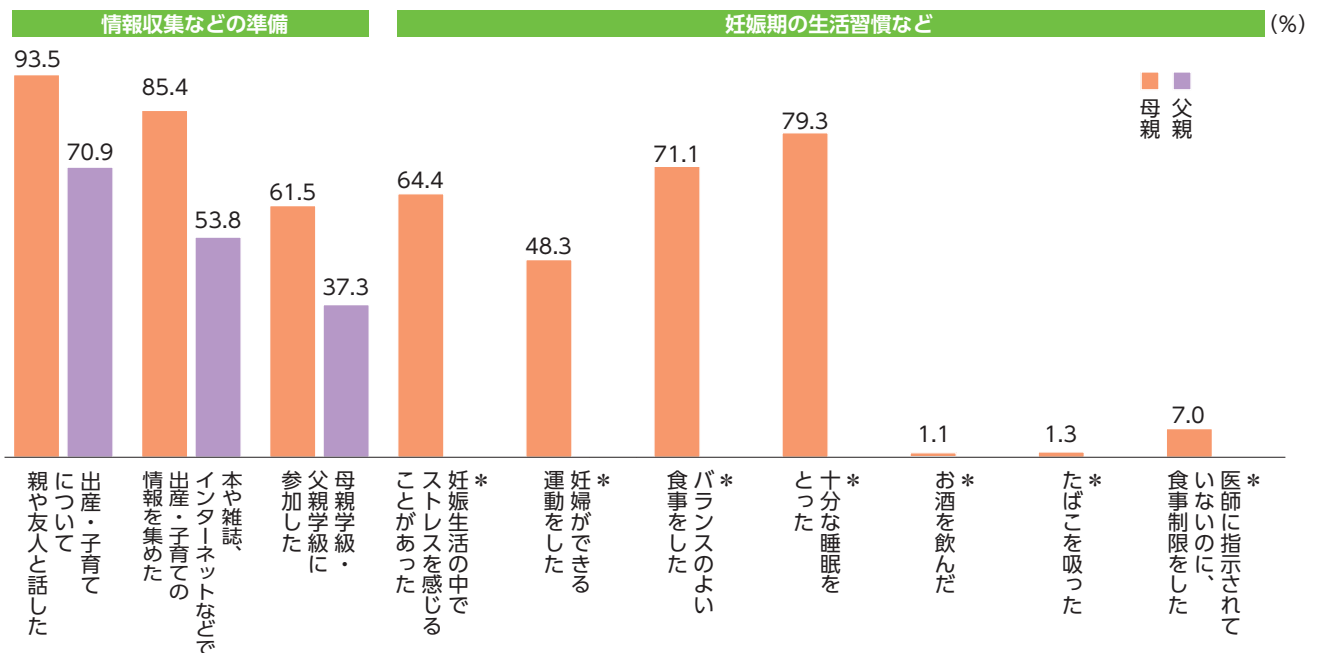
対象のお子様の出産前後の、あなたの気持ちや行動についてうかがいます。

図1-1 妊娠期の気持ち、健康状態



※ 「とてもあてはまる」 + 「まああてはまる」

図1-2 出産・子育てに向けた準備、生活習慣など



※ 「とてもあてはまる」 + 「まああてはまる」 ※ *の項目は母親のみ分析

出産後は、母親の約7割、父親の約6割が「子どもの世が大変だった」。

妊娠中に「赤ちゃんをどう育てるか配偶者と話し合った」夫婦は8割弱、「配偶者(子どもの父親)は妊娠生活を支えてくれた」と感じる母親は85.3%であった(図1-3-1)。配偶者が妊娠生活を支えてくれたと感じている母親は、子どもの出産後も「配偶者と子育てや家事をよく助け合っている」と感じる傾向がある(図1-3-2)。また母親の65.1%が「出産の間、幸せな気持ちがあった」が、出産後は6割台の母親が「子どもの世が大変だった」「家事が大変だった」「身体の疲れがとれなかった」と回答している。特に第一子の母親は、より「子どもの世が大変だった」と感じている(図1-4)。出産の様式は80.9%が自然分娩である。40代以上では、約3人に1人が帝王切開で出産している(図1-5)。

図1-3-1 妊娠期の配偶者との関係性

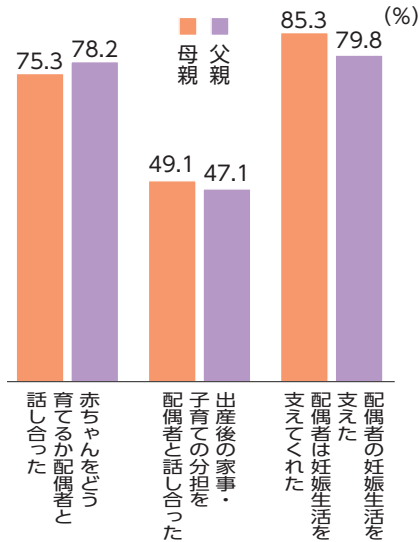


図1-3-2 「配偶者と子育てや家事をよく助け合っている」(母親)

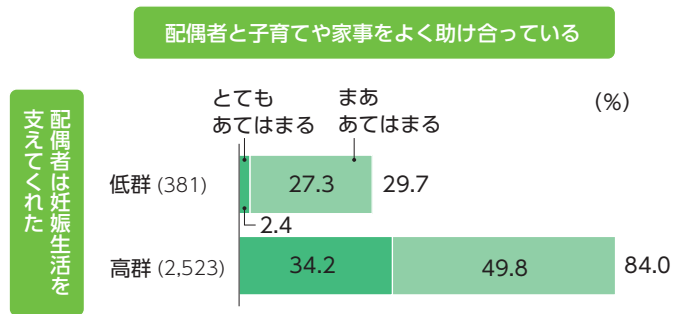
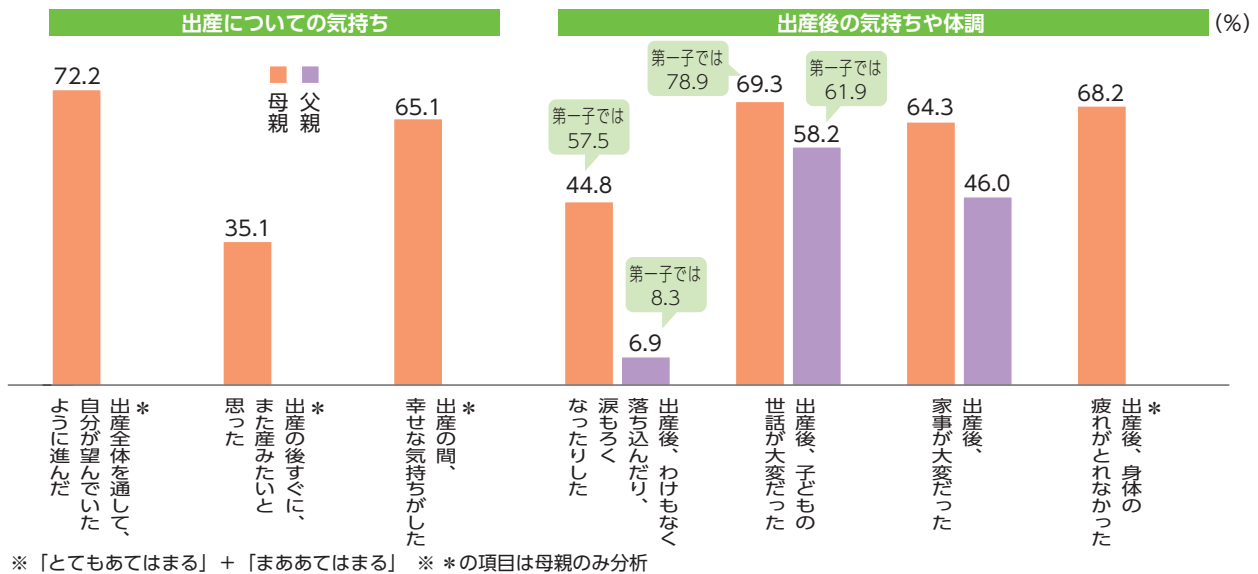


図1-4 出産時・出産後の気持ちなど



Q 対象のお子様の出生時について、差し支えない範囲で教えてください。

- 在胎週数 平均 38.8 週
 - 出生時に治療を受けた(光線治療など) 18.9%
 - 出生時の体重 平均 3009.8 グラム
- ※ 母親の回答 ※ 平均は無答不明を除いて算出

図1-5 出産の様式(母親の年代別)

